

## 第 75 回 全国健康保険協会東京支部評議会 議事概要

開 催 日	令和 4 年 7 月 1 5 日 金曜日 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
開 催 場 所	中野サンプラザ 1 5 階 エトワール
出 席 評 議 員	浅川評議員、飯島評議員、出利葉評議員、恩藏評議員、木津川評議員、 嶋村評議員、杉村評議員、傳田評議員、(五十音順)
議 題	
	<p><b>【報告事項】</b></p> <p>1. 令和 3 年度 決算（見込み）について</p> <p>2. インセンティブ制度について</p> <p>3. 令和 3 年度 東京支部事業報告について</p> <p>4. 令和 3 年度 支部保険者機能強化予算の執行実績について</p> <p>5. 戦略的保険者機能の充実・強化に向けた本部・支部の連携強化について</p> <p>6. 協会けんぽ東京支部 令和 2 年度医療費分析</p>
議 事 概 要 (主な意見等)	
	<p>1. <u>令和 3 年度 決算（見込み）について</u></p> <p>● <u>学識経験者</u></p> <p>東京支部の令和 5 年度保険料率が約 0.07%相当上昇する可能性があることについて、協会全体の準備金残高が約 5.2 ヶ月相当分積み上がる見込みであっても、東京支部保険料率の上昇は起こりうるものか。</p> <p>● <u>事務局</u></p> <p>都道府県単位保険料率の仕組みに基づくと、全国平均分としては約 479 億円の黒字が必要だが、実際には約 370 億円の黒字に留まったため、その差額分（約 109 億円）を精算することになる。</p> <p>東京支部は、これまで見込みと比べて医療費の少ない状態が続いていたため、追加の負担も発生しなかったが、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で、見込みよりも医療費が多くかかったことから、追加の負担が発生することとなる。</p> <p>● <u>被保険者代表</u></p> <p>本年 10 月に予定している短時間労働者の適用拡大等により、東京支部では今後どれくらいの被保険者数の増加が見込まれるのか。</p> <p>● <u>事務局</u></p> <p>協会全体の話であるが、適用拡大等により約 30 万人の増加を見込んでいる。その一方で、国や自治体等に非常勤で勤務されている約 100 万人は共済組合の適用となることから、合計すると約 70 万人の減少になる見込みと聞いている。</p>

● 学識経験者

東京支部の収支に大きく影響が出たのは、東京都の新型コロナウイルス感染症の感染者数が多かったからという認識でよろしいか。

● 事務局

対前々年度比の加入者 1 人あたり医療費で見ると、東京を含めた新型コロナウイルス感染症患者が比較的多かった都道府県支部の伸び率が大きくなっている。

理由として、令和 3 年度の医療費の見込みを立てる際には令和元年度（新型コロナウイルス感染症流行前）の医療費の状況を見ながら医療費を推計していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、想定より医療費が多くかかってしまったことが原因と考えられる。

● 被保険者代表

東京支部加入者で東京都以外の医療機関を受診した場合の医療費は、東京支部に反映されるという認識でよろしいか。

● 事務局

その通り。

## 2. インセンティブ制度について

● 学識経験者

今回の見直しで実施件数の評価割合が 5%上昇していることから、大規模支部に少しは配慮してもらえたと思われる。

● 事務局

大規模支部の不利益を少しでも減らそうという意図は読み取れるが、それでも根本的な解決とはなっていない。東京支部が上位 3 分の 1 に入るのは正直厳しいと思われるが、順位にはあまりこだわらず、5 項目の指標の数値等を上げていきたいと考えている。

## 3. 令和 3 年度 東京支部事業報告について

## 4. 令和 3 年度 支部保険者機能強化予算の執行実績について

● 事業主代表

「健康企業宣言取組事例集」は、他の事業所にも参考となる取組みが紹介されており、非常に良いものだと思う。

「ママ・パパあんしんブック」も、都内では祖父母と同居していない世帯が多いので、手元にあるといざという時にすごく便利だと思う。

● 事務局

健康企業宣言については、健康経営の考え方が普及してきたと肌で実感している。支部としても、健康経営の考え方など丁寧に説明しながら事業所に勧奨するとともに、業界団体等と連携して、経営層の方々が集まるような委員会で健康経営の話をする機会をいただいている。

● 事務局

健康企業宣言の目的は、従業員の皆さまにいかに関心になっていただくかであり、健康企業宣言をしたあとの取組みについても、「健康企業宣言取組事例集」等を活用しながら、支部として事業所をフォローしていきたいと考えている。

「ママ・パパあんしんブック」については、上手な医療のかかり方の周知が目的であるが、これまで出来ていなかった若い世代の加入者への還元として令和3年度に初めて作成した。好評であったことから、令和4年度も事業実施を予定としている。

● 学識経験者

資格喪失後の保険証回収について、回収にかかる費用より資格喪失後の返納金債権の方がはるかに小さいのであれば、費用対効果の観点から回収しない方がいいと思う。

費用面の数値が分かれば教えてほしい。

● 事務局

退職者等の保険証は、事業主が回収をして協会けんぽに返納していただくことになるため、回収にかかるコストは基本かからない。未回収の保険証があった場合、「回収催告状」を個別に送付していることから、郵送費用等は発生することになる。

また、資格喪失後の返納金の発生割合で見ると、資格喪失後1ヶ月以内に医療機関を受診するケースが全体の9割を超えていることから、資格喪失後いかに早く保険証を回収するかが、返納金債権を減少させるための最も効果的な施策であると考えている。

数値等については、本部にも確認してみる。

● 学識経験者

資格喪失後の保険証について、故意に使用されるケースが多いのか、それとも無意識に使用するケースが多いのか。

● 事務局

次の再就職までの期間や国民健康保険に加入するまでの期間に使用されるケースがほとんどであり、資格喪失後も長期間に渡って使用するというケースはかなり稀である。

● 学識経験者

生活習慣病予防健診受診率について、保険者機能の発揮という観点で基本的かつ重要な項目だと思われる。実績がKPI(52.7%)と比べてかなり開きが出ていることから、何か抜本的な対策を考えないと、いつまでもKPIに届かないという状態が続くと思われる。また、KPI(52.7%)の根

抛を教えてほしい。

● 事務局

東京支部の被保険者の健診受診対象者で、実際に健診を受けている割合は50%を超えている。分子と分母の取り方が異なっていることが要因であり、インセンティブの数値は分子と分母が合っており実態的にはKPIの52.7%に近い数値となっている。

● 学識経験者

実態値で見た場合、全国と比較してどうか。

● 事務局

大体平均くらいの成績である。

5. 戦略的保険者機能の充実・強化に向けた本部・支部の連携強化について

6. 協会けんぽ東京支部 令和2年度医療費分析

● 事業主代表

医療費の分析はこれからも継続して実施するという認識でよろしいか。

● 事務局

その通り。

● 学識経験者

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、また花粉症やインフルエンザ等がほとんど見られなかったことから、例年に比べ特殊な年度であった。そのため、今後の議論を進めるうえであまり参考にはならないと思われる。

● 事務局

今回は分析できる直近の年度が令和2年度であったということから、令和2年度の分析結果をお示ししている。令和3年度の医療費分析では、ご指摘の点も踏まえてご説明できればと考えている。

● 学識経験者

令和3年度についても、令和2年度からの反動で医療費が多くかかっているの、少し気をつけなければいけないと思う。また、グラフの見せ方は、分かりやすく改善して欲しい。

● 事務局

承知した。

● 事業主代表

業態別の医療費を分析することは重要だと思う。

最近社員が特定保健指導の健康相談をオンラインで受けていることから、IT分野での保健師の育成も進めてほしい。

● 事務局

今回の医療費分析については、単発ではなく時系列的に見ていき、他支部との比較もできればと考えている。分析結果から、保険者としてこういったところにどんな働きかけをしたら良いのかを検証したい。また、現在の生活習慣病予防健診と特定保健指導以外に進めるべきものは残っていないか、また、生活習慣病予防健診についても、年齢、性別、業態等を踏まえて、より効果的な方法を誰に対してどのように実施していけばよいのか等、仮説を立て、評議員の皆さまからご意見を頂戴しながら今後の保健事業を進めていきたい。

● 被保険者代表

物価の上昇に伴い、医療従事者の賃金や医薬品も値上がりすると、協会けんぽの支出も増えることが想定される。来年度に向けて、想定をいくつか出していただけると議論も深まりやすいと思われる。

● 事務局

医療従事者の賃金の上昇等は診療報酬に反映されると聞いている。次回以降、保険料率設定にかかる資料等が提示されるので、そこでご意見をいただきたい。

(全体を通して)

(質疑なし。)

以上

特記事項

- ・傍聴者：なし
- ・次回の開催予定：令和4年10月